

「欲しいって言わない」反響編

8月21日付まで8回連載した「いま子どもたちは／欲しいって言わない」に、メールや手紙などで60通を超える反響が寄せられました。その多くは教育格差への疑問を訴える声や、登場した子どもたちへの応援のメッセージでした。

連載の内容

経済的に苦しい家庭の子どもの今を追った連載「いま子どもたちは／欲しいって言わない」は、8月21〜31日、8回掲載。病気の母と2人暮らしで、旅行も誕生日のお祝いもしたことがなかった小6のエイジ君、母との年に1度のキャンプが楽しみという小5のハルミさんら4人を紹介した。名前はいずれも仮名。

宮城県の保育士の女性(49)は、記事を読んで「うちの子だけじゃないんだ」と、驚いた。

中学1年の長男(13)も「欲しい」とは言わない。数年前に離婚し、非常勤で働くが、生活はギリギリ。家にテレビはないが、長男は「ラジオの生活も楽しいよ」と、母を気遣う。

中学生になった時、憧れていた野球部への入部を希望したが、クラブやユニホームなどだけで10万円以上かかるとわかり、あきらめてもらった。女性は「我慢ばかりさせて、息子の可能性を摘んでいる自分が情けない」と嘆く。

苦労は将来の糧に

奈良県の新聞配達員の女性(33)は、「昔の自分を思い出した」。家庭が経済的に苦しく、食事も満足にとれなかった。中3から新聞配達の仕事を始め、アルバイトをしながら定時制高校を卒業した。「つらい時もあったけれど、苦労した経験は無

駄にはなりません。社会に出てから困難を乗り越える力になります」

4人の子の母となった現在、夢だった看護師を目指し、看護学校に通う。「家庭に恵まれない子も、どうか投げやりにならず、その時々を精いっぱい生きて、自分の夢をかなくて欲しい」

国にとっても損失

経済的な理由から進学が困難な高校生のハジメさんとミカさんの状況にも、多くの声が寄せられた。

高校3年の息子がいる東京都調布市のコピーライターの女性(51)は、「学ぶ意欲がありながら、あきらめなければならぬ子たちを見るのは、親世代としてつらい。ミカさんのように保育士になりたいという目的があり、努力している子が学べないのは、何ともやりきれない」。

神奈川県西南部の主婦(47)は「逆境にも腐らず、頑張っているハジメさんのような子が救われないことががくせんとした」とし、こう続けた。「勉強したいのに、様々な事情で進学をあきらめなければならぬ子たちを放置するのは、国にとっても

も大きな損失ではないでしょうか」

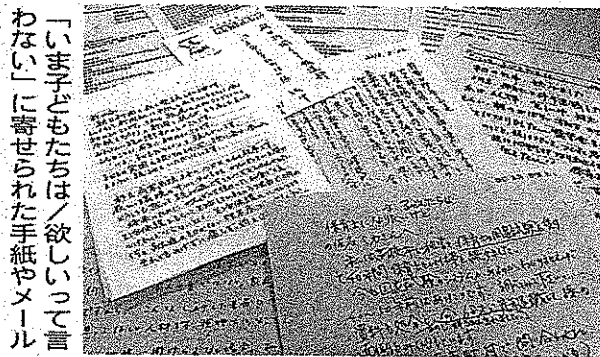
ハジメさんがアルバイト収入の半分以上を生活保護費から減額されることについて、横浜市の歯科衛生士の女性(48)は「生活保護家庭の子も、必ず学費に使うという条件で、保護費の減額を考慮してもらうことはできないのでしょうか」と問いかける。「生活保護受給者を減らすには、自立して納税できる大人になってもらうことこそ大切。資格を取り、知識を身につけようとする若者の芽が摘まれてしまふのは、釈然としません」

「働きながら通信教育で保育士の資格を取るの大変だから」と高校教諭に進学を勧められたミカさんには、体談が寄せられた。

名古屋市の保育士の女性(42)は企業に勤めながら、大学の通信教育課程で6年かけて保育士の資格を取得した。「休日もリポートの作成や試験があり、確かに大変ですが、やる気と根性があれば卒業はできます。ミカさんのようにやる気と希望を持った若者には、ぜひ保育士になり、未来の担い手である子どもたちの保育に携わって欲しい」(斎藤純江)

教育

負けないで夢かなえて



「いま子どもたちは／欲しいって言わない」に寄せられた手紙やメール

どんな時でも



東京都板橋区立金沢小学校4年、須藤朋音さん(9)お習字の教室で書きました。どんな時でも自分の意見を言う勇気が大切だと思っています。

水曜▼特報

木曜▼特報

金曜▼大学

土曜▼子育て